

No
29

安全に気をつけて道路を歩こうとする。

…人とのかわり…

安全に気をつけて歩こう 散歩における交通安全指導 10月

☆ 視点に関わる背景（4月からの状況） ☆

園児は、これまで、毎月、園内の「交通安全教室」で道路の歩き方や横断の仕方について指導を受けている。また、雨や雪の日の安全な歩行の仕方についても、季節や時期をとらえて指導を受けている。さらに雪の季節には、屋根からの落雪に気をつけて過ごすことも指導を受けている。

☆ 接続期の状況 ☆

子どもの姿・子ども同士のかかわり	保育者の援助・視点
<p>10月は、秋の自然が豊かになり、歩くのに適した時期となったので、「散歩を通して交通安全指導」を行うこととした。</p> <p>就学後の登下校を意識し、徐々に距離を延ばし、散歩ルートを変えながら、信号のある交差点、信号のない横断歩道など様々な状況を経験し安全な歩き方を身につけていく。</p> <p>歩くのに慣れてきたので、この日は、片道30分のコースを手をつないで出掛けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 好奇心旺盛な子どもたちは、様々な自然の変化に気を取られ、安全に対する注意が散漫になることがある。 保育者の声かけにより、気づく子どもや、なかなか気づかない子どももいる。 「ちゃんと前を見て！」など子ども同士で声を掛け合う子どももいる。 <div data-bbox="204 1249 406 1489"> </div> <div data-bbox="454 1249 758 1467"> <p>私は 必ず 止まります 右を見て 左を見て もう一度 右を見て 車は来ません (信号は青です)</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 保育者は、歩くペースがゆっくりな子どもや、援助が必要な子どもに配慮し、子どもの様子に合わせたペースを意識しながら歩く。 子ども自身が危険に気づくよう「車は来ていないかな?」と、声をかけたり「目で見ただけでなく、耳で車の音を聞く」事も大切であると伝えたりする。 横断歩道を渡る時は、3本指の約束を声に出して言いながら渡るよう促す。 <ul style="list-style-type: none"> この時期になると、声に出さなくても「心の中で言う」事が可能になってくる。また、学校の登下校時には必ずしも三本指の約束を用いた横断はしていないこともあり、声に出さずに、左右確認し横断することも指導する。
<p>保育者から、「もっと難しくしてもいいかな?」と声に出さずに左右確認し、渡る方法を示すと、子どもたちは、やる気満々で、一人ずつ、横断する。</p> <p>「年長だから、出来るんだ!」という自信が見られ、張り切って横断する。「一人で出来た」と達成感を感じている様子うかがわれる。</p>	

☆ 接続期の指導場面における配慮事項 ☆

幼児は自分の経験した内容を応用して生活や遊びを進めている。交通安全に関しても同様である。体験や、指導によって得た知識を生かし、子ども自身が様々な場面で自分なりに考え、理解し、判断しながら、適切な行動を選択できる事が望まれる。「ちょっと難しい」課題を与えられる方がやる気につながり、自己肯定感が育つこの時期の子どもにかかわる保育者は、肯定的な言葉かけをしながら自信を持たせていくことを大切にしている。